

NEWS RELEASE



国土交通省



関西観光本部
The Origin of Japan, KANSAI

国土交通省近畿運輸局
一般財団法人関西観光本部

【問い合わせ先】

近畿運輸局観光部（曾川・野村）

電話：06-6949-6428

“関西観光の新たなプロジェクト”

令和8年3月26日

「関西あったかプロジェクト（～2030年度）」を策定

～ つながって、触れて、もっと好きになる「あったかKANSAI」～

近畿運輸局・（一財）関西観光本部の2者は、大阪IRが開業される2030年を見据え、観光政策及び各種取組を力強く推進するため、大阪・関西万博後の新たな取組方針「関西あったかプロジェクト」を策定しましたので、お知らせいたします。

＜新たな取組方針のポイント＞

1. 目指す姿

○ 世界が注目するデスティネーション“KANSAI”

大阪IRが開業される2030年を見据え、万博を契機とした関西への観光機運を継続しつつ、行政をはじめ、多様なステークホルダーとの連携・協働の下、「広域連携観光戦略」に基づく取組を推進し、国内のみならず、世界が注目する“安心して何度も訪れたいくなるデスティネーションKANSAI”を目指す。

○ さらなるインバウンド需要に対応した「観光客の受入れと住民生活の質の確保との両立」

地域の実情に応じた「オーバーツーリズムの未然防止対策」が適切に講じられ、観光が地域住民の生活に裨益していく姿を実感できるよう、「観光客の受入れと地域住民の生活の質の確保との両立」を目指す。

○ 地方誘客を通じた「交流人口・関係人口の拡大」と「観光人材の活躍」

個性ある魅力的な観光スポットの形成・維持が図られ、地方誘客が一層促進されるよう、観光を通じた「交流人口・関係人口の拡大」と「観光人材が安心して就労・活躍」できる観光地域づくりを目指す。

2. 「目指す姿」の実現に向けた重点プロジェクト

○ 関西観光本部が策定・広域連携DMOとして司令塔を担う「広域連携観光戦略」に基づく取組の推進。

○ 観光庁予算（補助事業）を活用した、「観光需要の分散等による観光客の受入れと地域住民の生活の質の確保との両立」への支援。

○ “KANSAI”の認知度向上に向けた情報発信の強化。関西で行われる大型のスポーツ・周年イベント等を活用した地方誘客の機運醸成。

◆ 添付資料：「関西あったかプロジェクト」概要版

＜配布先：青灯クラブ・陸運記者会・観光関係業界紙・海事関係業界紙＞

◆ 「関西あったかプロジェクト」(計画期間:2026年度~2030年度)

2026.3.26_<概要版>



取組方針
【本文】



関西観光の現状と課題

- 大阪・京都を中心とした一部地域への偏在傾向と観光客の集中による地域住民の生活への影響への対応
- 観光二次交通の確保と情報発信のさらなる充実 ● 人口減少・高齢化による観光地域づくりの担い手不足への対応
- 観光庁等の統計データを活用したマーケティングと観光地域づくりへの支援
- 万博レガシーの発展と関西への観光の機運継続、観光をめぐる関西の動き(～2030年度)も踏まえた広域観光の推進

< 目指す姿 >

① 世界が注目するデスティネーション“KANSAI”

- 大阪・関西万博が大きな成功を収め、国内外に、関西のブランド力・観光資源の魅力(歴史、伝統文化・風習、自然、美食、エンターテインメント)を発信することができた。
- 大阪IRが開業される2030年を見据え、万博を契機とした関西への観光機運を継続しつつ、行政をはじめ、多様なステークホルダーとの連携・協働の下、「広域連携観光戦略」に基づく取組を推進し、国内のみならず、世界が注目する“安心して何度も訪れたいくなるデスティネーションKANSAI”を目指す。

② さらなるインバウンド需要に対応した「観光客の受入れと住民生活の質の確保との両立」

- 関西の一部の観光地では、過度の混雑や一部の外国人旅行者によるマナー違反行為によって、地域住民への影響や、観光客の満足度の低下への懸念が生じているが、これらの課題に対して、地域の実情に応じた「オーバーツーリズムの未然防止対策」が適切に講じられ、観光が地域住民の生活に裨益していく姿を実感できるよう、「観光客の受入れと地域住民の生活の質の確保との両立」を目指す。

③ 地方誘客を通じた「交流人口・関係人口の拡大」と「観光人材の活躍」

- 観光を取り巻く環境が変化(人口の減少・生産年齢人口の減少、気候変動・旅行ニーズの変化等)するなか、地方部の観光地が、旅行者の趣味嗜好を満足させるためには、観光資源の価値の維持・向上を担う「観光人材が活躍」・「定着」することが重要である。
- 個性ある魅力的な観光スポットの形成・維持が図られ、地方誘客が一層促進されるよう、観光を通じた「交流人口・関係人口の拡大」と「観光人材が安心して就労・活躍」できる観光地域づくりを目指す。

キーコンセプト

『つながって、触れて、もっと好きになる「あったかKANSAI」』

「観光客と受入側(地域・住民、地域・観光産業)」・「関西と他圏域・諸外国」・「(若者をはじめとした)人與人」がつながり、お互いが地域の魅力を知り、相互理解が深まれば、「目指す姿」を実現できるのではないかと。その想いをキーコンセプトに込めた。

重点目標

【2030年】

【2024年実績値】

1. 観光客の受入れと住民生活の質の確保との両立に取り組む地域数	20地域	← 約3.3倍	6地域(2025年含む)
2. 訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数	900万人泊	← 約2.8倍	327万人泊
3. 日本人の地方部延べ宿泊者数	2,800万人泊	← 約1.1倍	2,591万人泊

★★★ 観光に関する国・地方公共団体、広域DMOの施策・取組とも連携しつつ、総合的かつ計画的に「新たな取組方針」を推進 ★★★

大阪・関西万博後の持続的な観光に向けた基本戦略(取組の柱)

① 広域周遊・宿泊滞在の促進

② オーバーツーリズム対策(受入環境)

③ 観光二次交通の確保

④ 人材の活躍、地域情報・統計データの活用

戦略を進めるためのプロジェクト(方向性・施策) 『関西あったかプロジェクト』

地域に潜む魅力を掘り起こそう!
(関西ブランドの確立に向けたコンテンツの充実)

- ① 観光地域づくり法人(DMO)との連携・支援強化
 - ・ 関西観光本部が策定・広域連携DMOとして司令塔の役割を担う「広域連携観光戦略」に基づく取組の推進
 - ・ 「登録制度ガイドライン」を踏まえた地域DMOの体制強化・機能強化の推進
- ② 持続的な観光まちづくりの形成
 - ・ 観光まちづくりコンサルティング事業を通じた地域資源の掘り起こしと地域・経済の活性化
- ③ 広域周遊の促進
 - ・ ターゲットを絞った地方誘客の促進や、海上クルーズ等を活用した旅行振興の促進
 - ・ 他圏域(西のゴールデンルート等)との連携
- ④ 他分野との連携強化
 - ・ 施策の相乗効果を図るための関係省庁との勉強会・セミナーの実施
- ⑤ 観光客の満足度向上
 - ・ 観光ガイドの育成、観光資源の多言語化

心温まるおもてなしの場を広げよう!
(関西周遊の促進に向けた受入環境整備)

- ① オーバーツーリズムの未然防止・抑制
 - ・ 観光庁予算(補助事業)を活用した、「観光需要の分散等による観光客の受入れと地域住民の生活の質の確保との両立」への支援
 - ・ 手ぶら観光の推進・認知度の向上
 - ・ 京都駅一極集中の緩和に向けた取組の支援
- ② 観光二次交通の確保・充実
 - ・ 自動運転技術の活用等、二次交通への支援
- ③ 観光産業の人材不足対策等
 - ・ 観光産業従事者が働き続けられる環境づくり(宿泊施設等へのDX導入等)への支援
- ④ インバウンド旅行者が安心できる情報環境づくりの促進
 - ・ インバウンド旅行者に対する緊急時の情報提供の促進や観光施設・医療機関内の多言語化対応に向けた環境整備への支援
- ⑤ ユニバーサルツーリズムの推進等
 - ・ ユニバーサルツーリズムの推進、観光施設における心のバリアフリー認定制度の普及促進

ホットな情報をどんどん届けよう!
(観光関係者と連携した効果的な情報発信)

- ① 効果的な訪日プロモーションの実施
 - ・ “KANSAI”の認知度向上に向けた情報発信の強化
 - ・ 関西で行われる大型のスポーツ・周年イベント等を活用した地方誘客の機運醸成等
- ② デジタル技術を活用した移動サービスの提供の促進
 - ・ KANSAI MaaS等を活用した旅行者の移動・周遊の利便性向上
- ③ 観光庁等の統計データの活用
 - ・ 観光戦略等を検討している地域におけるデータの活用促進
- ④ 観光シンポジウム・観光セミナー等の実施
 - ・ 観光シンポジウムや、初任の観光従事者等を対象とした観光セミナーの企画・運営
 - ・ 商品タリフ(コンテンツシート)の作成に向けた研修会の企画・運営
- ⑤ 観光関係者の取組の情報発信(note)

近畿運輸局の主要取組

2026

2027

2028

2029

2030

DMOとの連携・支援強化

広域連携観光戦略に基づく取組の推進(毎年度)、登録DMOによる取組の把握・助言

オーバーツーリズム対策

観光庁予算(補助事業)の活用への提案、優良事例の情報共有(毎年度)

持続的な観光まちづくりの形成

観光まちづくりコンサルティング(毎年度)、観光シンポジウム・セミナーの企画立案・運営